



● 勝山観光の「点」から「線」への転換について

そのほかの質問

- ・今後4年間の市政運営について
- ・市の産品、商品等の販路拡大策について
- ・防災体制の充実、強化について

一般質問

問 昨年2003万人の観光客が勝山を訪れたが、宿泊者は8万人にとどまった。殆どの観光客が特定の観光スポットを楽しんで帰るからだ。滞在型、着地型観光を実現するには複数の観光スポット、「点」を魅力あるテーマでつなぎ、「線」、観光コース（京都、金沢型）に進化させる必要がある。例えば「恐竜から現代までの発展体験」「オススメ！勝山の好評ランチ」「勝山スイーツ事情」等。また、周遊する観光客を受け止めるには、飲食店と宿泊施設の充実（誘致含む）も不可欠。行政が先頭に立って市民を巻き込み、国内外にPRして観光客と関係業者を誘致しなければ、勝山の観光に未来は無い。勝山の姿勢を問う。

答 勝山市の観光の産業化を進めるには、魅力ある観光素材を線で結び面につなげていく、そういつた中で飲食店やお土産店を配置することが必要と考えている。現在、勝山市観光まちづくり株式会社により、観光客の市内周遊の拠点施設として、旧料亭花月楼、かつやま恐竜の森の（仮称）ジオタミナルの建設が進んでいる。さらに、平成32年度のオープンを目指す道の駅を加えた3極の拠点を活用することで、市内での周遊や飲食、物販による市内事業者の売上げ向上で観光の産業化を目指したい。

全国各地の旅行社から、旧料亭花月楼や白山平泉寺開山1300年について多くの問い合わせが来ているが、勝山市観光まちづくり株式会社は、着地型観光を視野にいたれた旅行業を運営の柱の一つとしている。

勝山市としても、観光地や飲食店、宿泊施設などさまざまな観光素材を組み合わせたバラエティ豊かな魅力的な観光コースが提供できるよう、勝山市観光まちづくり株式会社と連携して積極的に取り組んでいく。

また、宿泊観光客を増やすためにホテルなど宿泊施設の市内誘致は重要な課題と考えることから、さまざまな手段で情報を収集しながら、誘致について研究している。



● 学校で実施する防災教育について

そのほかの質問

- ・学校での避難所運営について
- ・特設公衆電話について
- ・航空写真を利用した防災対策等について

一般質問

問 平成23年3月に発生した東日本大震災、本年4月の熊本地震により、学校で実施する防災教育は、ますます重要になってきた。東京都日野市立平山小学校は、平成25年度から文科省研究開発学校の指定を受け、防災教育に取り組み、災害が発生するしくみや災害の備え、命を守るために必要な行動自然から受ける恵み、地域の地形や歴史、安全で強い町づくりなど、多彩な内容を学び、大学や各種研究機関の専門家や地域の人たちの協力も得ながら、系統的・体系的に学びを進めている。新潟県三条市立第四中学校は、「小中一貫教育9年間で郷土愛を育成する防災教育」に取り組み、校区内に水に関する地名が多く、歴史的にも水害が多い地域であることを確認し、人々がこの地域に住み続ける理由を考え、地域の良いところ、素晴らしいところを知る。そこには先人たちが災害を防ぎ、産業を発展させるために行った努力があることを学び、自分たちには何ができるかを考えていく。

答 勝山市の小中学校では、各教科の学習、避難訓練、ふるさと学習の中で防災教育を行っている。小学校社会科では、水害や雪害などについて知り、防災に向けてどのような工夫や努力を重ねてきたかを学ぶ。また中学校理科では、日本各地で発生した災害の実例をもとに大地震や津波、火山による災害とその防災について学ぶ。

そのような学習で身に付けた知識を活かして、避難訓練を実施し、自然災害や火災、不審者への対応訓練のほか、保護者の協力を得た災害時の児童生徒引き渡し訓練も行っている。また、それぞれの学校の地理的な特性に合った避難訓練も実施する。

ふるさと学習では、身近な防災教育に併せ、地元への愛着と誇りにつながるよう努めている。今後は、地域特性に即したより実践的、効果的な防災教育の充実に努めたい。